

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会		
						意見等評価		
1	自主的な学びの推進	●学び合い・振り返り、ICTの活用を手段とした「わかる・できる」授業の展開	学び合い・振り返り・ICTの活用を手段として、自立した学習者の育成を目指す。授業で「わかった・できた」と実感している生徒を昨年度（89%）以上にする。	3	3	<p>○相互授業参観に取り組み、授業改善に努めた。「授業で『わかった・できた』と感じている」と回答した生徒は前年度と変わらず89%であった。しかしながら、この生徒の実感が、諸調査等で結果として現れていない。次年度も、主題研究等をおして授業改善に努め、生徒が「わかった・できた」と実感でき、それが結果として表れるような授業の構築を目指していく。</p> <p>○「家庭学習に積極的に取り組み学力を付けている」と回答した生徒は昨年度並みの73%であった。保護者の肯定的回答は昨年度の58%から55%に減少した。生徒の実態に応じた家庭学習のあり方・促進について時間をかけて検討することが重要である。</p> <p>○総合的な学習に、3年生は「SDGsの課題解決」、2年生は「社会体験学習」、1年生は「ふるさと日向市の振興策」について取り組み、緑風祭でその成果を発表した。「働くことに関心を持ち、将来の夢や職業を思い描いている」と回答した生徒は、前年度より微増の76%であった。来年度も取り組みを継続していく。</p> <p>○昨年度に続き、ICTの活用等をおして学校生活を改善しようとする生徒会活動への意識は全体的に高い。「生徒会活動に積極的」と回答した生徒は91%、保護者は82%であった。今後も生徒の主体性を伸ばしていく。</p>	3	<p>●「家庭教育」への保護者の回答が約半数55%というのは実際保護者が学習する姿を見ないのか、試験の結果として感じるのか分析して取り組む必要があると思う。確かな学力は学校だけでは身につかない。</p> <p>●「将来の夢や職業」への関心が63%というのは中学生としては高い数値ではないかと思う。</p> <p>●大切なことは「学び」の習慣であり、家庭学習における環境作りには保護者の理解と協力は欠かせない。その上で、教科指導等にICTを活用し興味を持たせていけば「わかる・できた」につながるのではないかと。</p> <p>●自分たちで考え行動することは素晴らしいことだが、中学生はその練習をする場だと思う。</p> <p>●生きる力を育む教育は大切だが、中学生はまだまだ学習習慣や基礎学力を身につける時間だと思う。</p> <p>●自主的という言葉は使うことには便利だが、実際子供たちに全てを任せてみると、期待しているレベルのことはできない。</p>
		●学習の意義の理解、家庭への啓発と連携をおした家庭学習の充実	委員会活動等をおして、家庭学習の充実に取り組み、家庭学習について肯定的な回答の割合を生徒・保護者とも8割以上にする。	2				
		●地域や世界の課題把握と探究的な学習をおしたキャリア教育の充実	SDGsの観点から地域や世界の課題把握と探究的な学習を展開し、自分自身に何ができるかを考えさせ、将来の夢や目標を思い描く生徒を9割以上にする。	2				
		●生徒自らが課題解決を図る主体的な生徒会活動の推進	生徒が自ら課題に気付き、解決に向け行動するよう支援し、生徒会活動をさらに活性化させ、生徒の主体的活動に関する肯定的回答を9割以上にする。	4				
2	協同的な人間関係の構築	●いじめ・不登校生徒をなくす魅力ある学校づくり（居場所づくり、絆づくり）の推進	関係機関との連携等をおして、全生徒・保護者の居場所づくり、絆づくりを継続し、いじめや差別を許さない立場で行動できる生徒を100%にする。	3	3	<p>○不登校生徒数は微増の状況であるが、関係機関と連携し対応を継続するとともに、校内に「ハートフル相談室（仮）」を設置した。継続して学校行事や生徒会活動による絆づくりに取り組んだ。「いじめや差別を許さない」と回答した生徒は98%であった。今後も根気強く取り組んでいく。</p> <p>○全職員で実施する道徳の授業が定着した。「道徳的な力を身につけようとしている」と回答した生徒の割合は94%、保護者の割合は92%であった。</p> <p>○みんなと何かすることが楽しいと感じる」と回答した生徒は94%であった。行事等をおして自他を肯定する雰囲気醸成されている。今後も、学校行事等の充実とともに、生徒会による掲示物の工夫や学期1回の人権学習を継続する。</p>	3	<p>●道徳の授業の定着ができていのはとても素晴らしく、いじめや不登校または自死の未然防止や予防、またはインクルーシブ教育の推進に一番大事な教育だと思う。それと同じで生徒がSOSを出しやすい学校づくりに取り組んでほしい。</p> <p>●生徒会や部活動、集団での行事を通じて社会性を身につけさせてほしい。利己主義や身勝手さが個性と勘違いされている節がある。次世代を担う彼らに新たな知識として、協働や支え合いを理解させたい。</p> <p>●学校、社会でいくら取り組んでも家庭がうまくいってないこともある。学校ではやれることを全力で取り組まれ、先生方も精一杯やられていると感じた。</p>
		●個々の変容を促す組織的な道徳教育の実践	引き続き、全職員で実施する道徳の授業を推進し、一人一人の変容を多くの目でとらえ評価し、道徳的な力を身につけようとする生徒を9割以上にする。	3				
		●互いのよさを認め合い、尊重し合う人権教育や特別支援教育の充実	行事や体験活動、生徒会活動をおして、互いの良さに気づかせると同時に、定期的に人権教育の授業を行っていく。みんなと何かすることが楽しいと感じる生徒を9割以上にする。	3				
3	健康的な心身の育成	●自他の命を大切にするための安全教育や防災教育の充実	学校以外で地震や津波が起こった場合の避難場所を家族で話し合わせ、生活の記録に全員記載させる。登下校時の交通ルールやマナーを守る生徒を9割以上にする。	3	3	<p>○生徒に避難場所を書かせることはできたが、これまで以上に実際に避難訓練の実施に努める。「登下校時の交通ルールやマナーを守っている」と回答した生徒は97%、保護者は98%であったが、地域から交通マナーに関する苦情が数件寄せられている。引き続き、年度当初の交通安全指導・常時指導の充実を努める。</p> <p>○メディアコントロール週間を定期テストに合わせて設定した。「ルールを決めている」と答えた生徒は74%、保護者は68%、職員は50%であった。数値が伸び悩んでいるが、「日向メディア法」を活用するなどして取組を継続していく。</p> <p>○適度な運動、バランスよい食事については、89%の生徒が肯定的な回答であった。</p> <p>○地区中学校総合体育大会の前に、コロナ感染が広がり、3年生が出場できない部活動が出てしまった。大きな行事、入試等の前には、状況に応じて油断することなく感染対策をする必要がある。</p>	3	<p>●メディアコントロールだけでなくネットリテラシーを学ぶ必要がある。これが低いと情報の誤解やトラブルに巻き込まれたり、本人が加害者になる可能性も出てくる。</p> <p>●メディアコントロールは強かに推進する必要がある。情報の確かさや依存性のほか、目や姿勢への影響など生徒に教えると共に保護者が果たす役割についても、家庭教育学級など機会を捉えて学ぶ必要があります。</p> <p>●命を守ることが一番でその次に健康な身体。</p> <p>●スマホの使い方は、やはり大きな問題ですね。親と子が約束事を決めて、親もしっかり守って子に示すのが一番いいと思うのですが。</p>
		●メディアコントロールとともに健康を大切に、体力向上を図る保健指導・食育指導の充実	校区内の小学校と連携したメディアコントロール週間を実施する。インターネットやスマホを使う場合のルールを決めている生徒を8割以上にする。	2				
		●規則正しい生活の確立と環境教育の充実	適度な運動、バランスのとれた食事が実践できる生徒の割合を9割以上にする。	3				
		●感染症対策の徹底と自覚ある行動の推進	換気・手洗い・消毒など感染予防の基本的ルールを継続して徹底させるとともに、感染状況に応じて、柔軟な授業・行事等の計画変更を行い豊かな学びを保証する。	3				
4	家庭・地域との連携	●楽しさと充実感を感じさせる日向中学校区コミュニティスクール作りの実践	総合的な学習の時間等で積極的に地域の皆さんに協力を依頼し、生徒の学びを充実させる。地域の代表である学校運営協議会において、生徒との意見交換の場を設け、ともに学校の課題を共有し、解決できるように進める。	3	4	<p>○キャリア教育支援センター等にご尽力いただき、多くの地域の方々にご協力いただき教育活動を行った。学校運営協議会委員に生徒会が昨年度からの取組を発表し、ご意見をいただいた。今年度は地域の行事が多く復活し、校内ボランティア組織「みどりの風」の活動に加えて、積極的に校外でのボランティアに参加する姿が見られた。</p> <p>○感染が落ち着き、保護者の参観の機会を確実に設定することができた。学級通信等は、定期的に発行することができている。HPの更新に力を入れ、4月以降のアクセス数は44万件を超えている。※2/27現在</p> <p>○計画的に総合的な学習の時間を進めており、職場体験学習やふるさと学習の成果を、全学年緑風祭で発表することができた。関係機関との連携を昨年度以上に意識し、個別に生徒への対応を行っている。3年生は確実な進路保障につなげたい。</p>	4	<p>●学校と地域の協働活動においても問題意識の共有を図り、自分たちの取組の意味を考えながら、主体的に動くことが大事。</p> <p>●地域にとって学校の大切さは理解されにくい。公立中学校を選択しない家庭も出てきているので、もっと学校をPRすることが大切で、学校に呼び込む、または地域に出る活動を増やしてほしい。</p> <p>●大人・他人と接する時間が少ない現代の子供たちは、この取組が一番大事だと思います。自己評価4は真剣に取り組んでいる証！今後も続けてほしい。</p>
		●家庭・地域への情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進	行事や総合的な学習の時間の発表等を公開し保護者の参観を促す。学年通信、学級通信、生徒指導通信、保健便り、図書館だよりを定期的に発行し、HPを更新する。	3				
		●総合的な学習の時間の再構築と地域や関係機関との連携・協働による教育活動の充実	昨年度見直した総合的な学習の時間の学習計画に沿って、キャリア教育やふるさと学習等に取り組む。生徒指導面ではSCやSSW、市子ども課、児童相談所等との連携を密にし、ケース会等を随時設け、よりよい問題解決につなげていく。	4				